



2021～2022 年度 世話人代表

須賀 英隆（名古屋大学 大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科学）



YECは2009年に橋本貢士初代世話人代表のもとに発足し、代々のメンバーが引き継ぎつつ、一貫して若手・中堅研究者の育成を目指して活動して参りました。「主な活動」の項に記載しておりますが、内分泌代謝サマーセミナーや学術総会における YEC シンポジウム、YEC 企画として留学の勧め、KO ラウンドの分担、時として日韓共同シンポジウムなどを実施して参りました。支援してくださっている内分泌学会若手育成委員会や理事会をはじめ、関係者の皆様方に感謝申し上げます。

こうした支援を活かし、YEC は本邦最大級の若手研究者ネットワークに育ってきています。理工学系、農学系、薬学系、医学系など様々な経歴の研究者が所属して交流するって、なかなか得がたい刺激です。YEC 関係者の努力により、YEC 内部の活動性は随分高まったと言えます。

次にすべきは YEC の外へも何らかの貢献をしていくことです。まずは面白い研究を分かりやすく紹介する機会を設けていきたいと思います。思い返せば、私自身が研究の話を初めて真剣に聴いたのは、2002 年淡路島でのサマーセミナーでした。研修医 2 年間で終わり内分泌内科に fix した頃で、部長先生にサマーセミナーって何ですか？と質問したところ難しいと思うけど行っておいでと送り出して頂きました。行ってみたら英語発表でスライドも全く理解できず 1 時間もたずレンタカーで脱出してしまったのですが、でもあの時の、自分の知らない世界がたくさんある晴れやかな気持ち、positive な印象が今でも記憶に残っています。

だいたい研究発表というものは聴講者にとってとっつきにくいものです。Google Map を弱拡大で眺めるような無味乾燥な気分になります、少なくとも初心者には。本当は、そこに示される土地の風・土・日ざし・温度・湿度・住む人・食べ物などが生き生きとして存在するはずですが、研究発表ではそれが消されがちです。一方で研究者は、広汎な map を、自らの位置と目指す方向とを指し示すことが大切であり、是非突き進んで頂きたい訳です。ならば、YEC の出来ることは、美しい map を描く研究者を探してきて特別の時間を設け、その土地の生き生きとした様子を皆に伝える機会にして頂くことでしょうか。そういった活動をして参ります。Google Map だって、その魅力をぐっと増したのは Street View を装備してからのからです。

令和 3 年 4 月